

## 平和首長会議代表スピーチ（田上長崎市長）

タウス・フェルーキ議長、各国政府代表の皆様、市民グループのリーダーの皆様、私は、長崎市長の田上富久です。本日は、平和首長会議の副会長として、また被爆地長崎の市民を代表して、皆様にお話をする機会をいただき、心から感謝を申し上げます。

どうか核兵器のない世界の実現を願う私たちの切実な声を聞いてください。

長崎は、70年前の1945年8月9日、広島に続き、世界で2発目の原子爆弾が投下された街です。原爆の凄まじい熱線と爆風と放射線により、一瞬にして街は壊滅し、子どもや高齢者を含む約15万人もの市民が死傷しました。かろうじて生き残った人も、今なお放射線の後障害に苦しみ続けています。

今回、日本からたくさんの被爆者が、最後の力を振り絞り、核兵器廃絶を訴えるために、ニューヨークにきています。今、被爆者の平均年齢は80歳になろうとしています。彼らに残された時間は多くありません。私たちには、彼らが生きているうちに核兵器廃絶への道筋を示す責任があります。

2010 N P T再検討会議の後、3回にわたり「核兵器の非人道性に関する国際会議」が開催され、非人道性に焦点をあてた核軍縮の議論が高まる中で、私たちは今回のN P T再検討会議を迎えました。しかしながら、前回の再検討会議の合意事項は守られないどころか、最近では、ウクライナ政変を契機としたロシアと欧米との緊張が核戦争の危険性を高めており、冷戦時代へ逆行するかのようです。このままでは、N P T体制の形骸化が危惧されます。

核兵器国に対して訴えます。

まず、アメリカとロシアに核兵器削減のスピードを速めるよう求めます。両国がそれぞれ核弾頭を500個にまで削減すれば、核保有5か国による核軍縮交渉の進展につながります。

先月、フェルーキ議長は、広島・長崎を訪れてくださいました。各国首脳はもちろん、核問題に関わる全ての皆さんも、ぜひ被爆地を訪問して被爆の実相を自分の目で見てください。そうすれば、核兵器がいかに非人道的な兵器であ

り、一刻も早くなくさなければならない兵器であるかを理解できるはずです。

核の傘に依存する非核兵器国に訴えます。

2010 N P T 再検討会議の合意文書のアクション 1 で「すべての加盟国は、N P T 及び核兵器のない世界という目的に完全に合致した政策を追求することを誓約する」と約束した内容を思い起こし、他人事ではなく自分のこととして皆様の国が遵守するよう求めます。

こうした政策のひとつが、「非核兵器地帯」の設立です。「核の傘」ではなく非核兵器地帯という「非核の傘」を拡大する必要があります。私たちが住む北東アジア地域でも、北朝鮮の核をめぐる緊張があります。日本政府におかれましては、北東アジアの安定のためにも韓国や北朝鮮に働きかけ、「北東アジア非核兵器地帯」の創設に向け努力するよう求めます。

核抑止力に依存しない非核兵器国に訴えます。

多くの国々が非核兵器地帯を形成していることに感謝申し上げます。これらの国々の強力な連携によって懸案の「中東非大量破壊兵器地帯」設立の動きが進展することを願います。また、核兵器の非人道性に関する国際世論を 72 億の地球市民の声にしていくために、さらなる活動をお願いします。

今回の再検討会議には、核軍縮を進展させようと、多くの国々が作業文書を提出しています。国によって核兵器廃絶へのアプローチが異なったとしても、我々が目指すゴールは同じです。今回の会議において、ゴールへのロードマップを描くための、すべての国に開かれた継続的な協議の場が創られるべきです。

核兵器の抑止力に頼る古い価値観を捨てきれないでいるうちに再び危険が増してきた現在の姿を認め、被爆から 70 年の今回の再検討会議を、核兵器の価値を否定する新しい世界へのターニング・ポイントにしようではありませんか。

今回の N P T 再検討会議で活発な議論がなされ、被爆者が望む前進が得られることを期待します。

ご清聴ありがとうございました。